

進路オリエンテーションから『夢』の実現へ！

① 「日常生活」はしっかりと。

まずは「あいさつ」。きちんと大きな声で毎日あいさつしていますか。小さな声であったり、ただ頭を下げるだけではダメ。朝の玄関から意識して学校生活を送りましょう。言われてから返すあいさつではなく『先手あいさつ』で。職員室への入室の際、プレザーのボタンをはじめ、身だしなみを入口左側の鏡で確認してから入りましょう。先生方との会話は友達と話すように軽くなっていませんか？言葉遣いにも気をつけて、自分の要件を正しく伝えることができるようにしましょう。

② 「授業が基本」です。

芽高生は残念ながら家庭学習は少ない傾向です。今日から一日1時間でも継続して学習すれば確実に力は着いてきます。しかし、ただ机に1時間向かっていればいいものではありません。大学進学を目指す受験生は「学年＋2時間」の家庭学習時間が必要と言われますが、内容を濃くして机に向かう習慣からはじめてみましょう。また、登下校のJR車内、昼休みなどのスキマ時間を有効に利用していくことも大切です。1日24時間、この時間をいかにやり繰りしていくかが、これからの人間性を高めていけると思います。時間だけは世界すべての人に共通して与えられたものですから。

③ 計画的に「資格取得」を目指そう。

進路通信2号で資格取得について書きました。英語検定、数学検定、漢字検定、情報処理検定などなど。3年生は推薦書や履歴書に書くことのできる最後のチャンスです。高体連や前期中間考査を控えて大変な時期ですが、毎日少しずつ資格取得に向けての学習時間を確保し、ワンランク上を目指しましょう！

④ 「模擬試験」は積極的に受けよう。

進学模試、看護模試、公務員模試などは積極的に受けて、自分の弱点を見つけましょう。大切なのは試験が終わったら必ず解き直しをして、同じ問題を解けるようにしていきましょう。模試の問題は本番の試験を想定しており、出題された問題が毎年あちらこちらの本試験で出題されています。また、大学や看護学校を推薦で考えている人は、模試から基礎力をつけていくようにしましょう。入学後に基礎学力がなくて留年したり、退学する人もいます。合格して入学することが最終地点ではありません。特に国家試験がある医療系大学や専門学校は、国家試験をクリアして卒業となります。普段から模試を受けて基礎学力をつけていくようにしましょう。

⑤ 進んで「進路研究」をしていこう。

オープンキャンパスや進路相談会に参加して、志望先の学習環境や施設、就職状況などを調べていきましょう。学費などの経費も家庭での相談材料にしていきましょう。パンフレットでなく、自分の目で確かめていくことは必須です。進路意識を高めていくためにも、進んで参加していきましょう。

⑥ 就職も進学も「学校の代表」です。

評定(成績)が条件を満たしていれば、進学も就職も推薦されるというものではありません。学習のほかに学校行事、取得資格、部活動や課外活動(ボランティア活動)など、総合的に判断されます。自分のPRできるものを在学中に一つでも多く作りましょう。アルバイトだけで終わってしまう人が毎年いますが、それだけにならないように今から行動していきましょう。

⑦ 「進路の手引き」を活かそう。

推薦条件や合格した先輩方の評定、指定校一覧、合格体験記などをしっかり読んで、自分は今、何をすべきなのかをしっかりと考えてみましょう。3年生になって、推薦条件をクリアしていないことに気づき、困っている先輩を何人も見てきました。そうならないように、進路の手引きを手元に置いて、進路実現に向けて対策をたてていきましょう。

* 進路実現は団体戦です。学年全体で取り組んでいくという気持ちが大切です。

* いきなり全部は無理ですから、できることから一つずつ取り組んでいきましょう。まずは「やってみよう！」という一歩を踏み出す気持ちでいきましょう！